

健康づくりで

安心な医療を

安心して医療を受けるためには、必ずいずれかの健康保険に加入しなければなりません。このとき勤務先などの保険に加入できない人の医療費を保障する制度が国民健康保険(国保)です。国保は、加入者からの保険料と国や県の負担金などを財源として市が運営しています。特定健康診査などで生活習慣病になる前に異常を発見し、自分の健康を守ると共に医療費の増加を防ぎましょう。

◎ 保険給付課国民健康保険担当 ☎ 6051

疾病別の医療費と件数

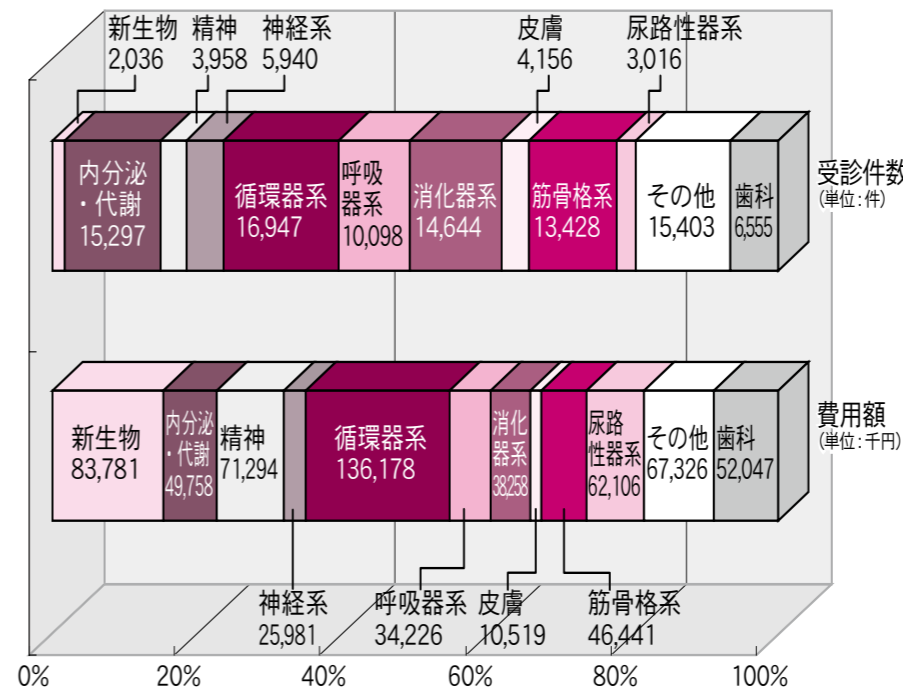
平成26年5月診療の医療統計から見た疾病の状況(図1参照)は、件数・費用ともに高血圧・心臓疾患・脳血管疾患などの「循環器系疾患」の割合が高くなっています。

また、件数では、糖尿病・高脂血症・甲状腺障害などの「内分泌・代謝」、次いで「消化器系疾患」、さらに費用額では、がん・リンパ腫・白血病などの「新生物」の割合が高くなっています。

これらの病気は、生活習慣が要因で起こる「生活習慣病」と言われ、食生活や運動、休養、喫煙、飲酒などの日常生活を見直すことで、予防できることが多い病気です。

定期的に特定健康診査などを受け、疾病の早期発見・早期治療に努めましょう。

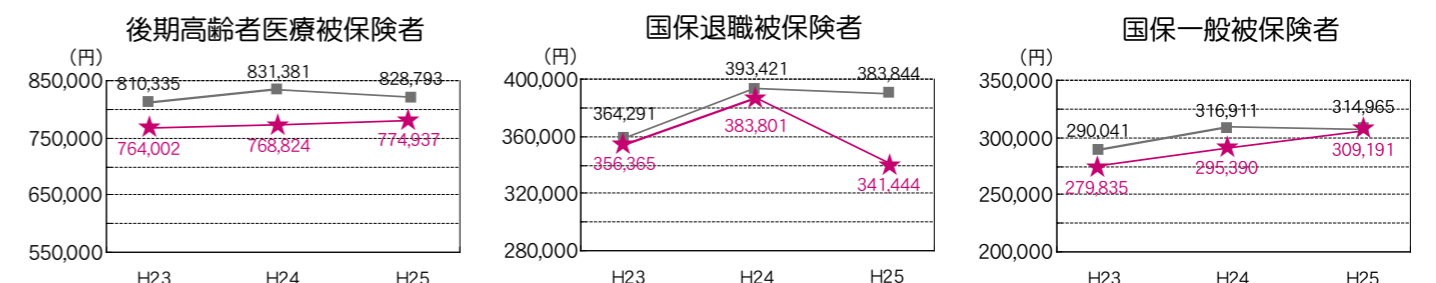
【図1】 疾病分類別受診件数と費用額(平成26年5月診療分)



国保の9割以上を占める一般被保険者の1人当たりの医療費(図2参照)は年々増加傾向にあります。また、一般被保険者と比べ退職被保険者は約1.1倍、後期高齢者医療は約2.5倍と高齢になるほど医療費が高

くなることから、正しい生活習慣を身に付け健康を維持することが寿命を延ばし、国保などの健全な財政運営にもつながります。定期的に特定健康診査などを受け、健康づくりを心掛けましょう。

【図2】 1人当たりの医療費 (大崎市 ●●● 宮城県)



いつまでもいきいきと

～認知症になっても安心して暮らせるまちを目指して～

超高齢化社会を迎える日本。平成26年には認知症の高齢者が410万人にのぼると試算されています。認知症は、決して他人事ではなく、年をとれば誰にでも起こり得る身近な病気です。認知症ケアは、個人で頑張る時代ではなく、地域のチームで支える時代となりました。

◎ 高齢介護課地域支援係 ☎ 23-2511

■認知症を正しく理解しましょう!

認知症は、正常であった脳の知的な働き(記憶、時間や場所の感覚、判断力や問題解決能力など)が、脳の病気によって持続的に低下し、以前にできていたことが、できなくなるなど、今までのような生活が送れなくなります。認知症は、誰にでも発症する可能性があり、85歳以上になると、4人のうち1人に症状があると言われています。

認知症については、誤解や偏見が多く、認知症の人も周囲の人も傷ついたり、疲れたりします。それだけに、認知症とケアの方法を正しく理解し、認知症の人と共に安心して暮らせる温かいまちづくりがとても重要な時代となりました。そのためには、みんなが認知症を正しく理解し、認知症の人とみんながつながることが大切です。

■早期発見・早期対応が大切です!

認知症の早期発見には、家族や地域の皆さんが「今までと違う様子」に気付き、かかりつけ医への相談や専門医の診断を受けることが大変重要とな

ります。困ったことや、気になることは、最寄りの地域包括支援センターにご相談ください。

センター名	電話番号	担当地域
古川地域包括支援センター	87-3113	古川地域(古川、荒雄、志田、西古川、東大崎、敷玉、高倉)
志田地域包括支援センター	53-1271	松山地域、三本木地域、鹿島台地域
玉造地域包括支援センター	72-4888	岩出山地域、鳴子温泉地域
田尻地域包括支援センター	39-3601	古川地域(宮沢、富永、長岡、清滝)、田尻地域

■出前講座「いつだって心は生きている」

講師を派遣します。あなたの地域や職場、各種の集まりなどで、認知症について学んでみませんか。

- 内容
- ① 認知症ってどんな病気?
 - ② 単なる物忘れ? 病気の物忘れ?
 - ③ 認知症の人や家族の気持ちや対応について
 - ④ 認知症になっても「安心」して暮らせる地域へ
- 時間 1時間～1時間30分程度
 料金 無料
 申込 高齢介護課または各総合支所市民福祉課

認知症市民フォーラム

日時 3月3日(火) 12時30分受付開始
 場所 大崎生涯学習センター(パレットおおさき)
 対象 市内の介護事業所(居宅介護支援事業所、居宅介護サービス事業所、介護施設など)、医療機関(大崎市医師会)、薬局・薬店(大崎薬剤師会)

認知症の人を支える関係機関で、これからの多職種連携の体制構築について考えます。

第1部 フォーラム「大崎市の認知症の人と家族の支援を考える」 13時～

内容 大崎市の現状と認知症施策、大崎市の認知症の支援の流れ～さまざまな取り組み～

- ① 「1人」の暮らしにじっくり関わって
- ② 地域での生活を支える連携体制の構築に向けて
- ③ 地域での日常生活・家族の支援の強化

発表者 大崎市認知症地域支援推進員、大崎市認知症キャラバン・メイト

第2部 基調講演「認知症ケアに携わる多職種連携～今、わたしたちにできること～」 14時30分～

講師 認知症介護研究・研修東京センター研究部長 永田 久美子 氏



1960年、新潟県三条市生まれ。千葉大学大学院看護学研究科修了。学生時代から地域や病院、施設で認知症の人と家族を支援する活動と研究を続けている。東京都老人総合研究所を経て、2000年から認知症介護研究・研修東京センター勤務。